初夏の福津で味わうおいしさ

自転車でめぐる初夏を感じてブルーベリー狩り

ふくつ観光協会が主催する「自転車でめぐる初夏を感じてブルーベリー狩り」が、6月6日に開催されました。

参加者は福間駅から自転車で出発。初夏の風を感じながらブルーベリー狩りをした後、ランチを満喫し、市内の観光地を巡りました。

ブルーベリー狩りのため、チェリーベル観光農園ふくつに到着した参加者は、500円玉ほどの大きさのブルーベリーに驚き。摘みたてのブルーベリーを食べながら「あっちのブルーベリーは甘かったけど、こっちの味はさっぱりしている」と、3種類のブルーベリーの味の違いを楽しんでいました。

また、ブルーベリーを乗せたデザートやジュースを味わいながら「福津にブルーベリー狩りができる場所があるなんて知らなかった」とうれしそうに話していました。

▼動画はココ

▲大きなブルーベリーを摘む参加者

思い思いの食べ方で

じゃがいも掘り体験

毎年人気で、今年も募集開始から2日で予約が埋まった、あんずの里市利用組合主催の「じゃがいも掘り体験」が、6月14日に開催されました。

会場のジャガイモ畑では、参加者は初めてのジャガイモ掘りを楽しんだり、去年よりも多く掘れるよう奮闘したりと、体験を満喫していました。

参加者に収穫したジャガイモの食べ方を尋ねると、肉じゃがやカレー、コロッケなどおなじみのものから、フライドポテトやガレットまで、家庭それぞれの味わい方がありました。

▼動画はココ

▲収穫したじゃがいもを手に喜ぶ子どもたち

福津をより良く

福間中発！福津市未来会議

福津の良さや課題を踏まえて、より良い市になるための提案を考える「福間中発！福津市未来会議」が福間中学校3年生を対象に行われています。

6月22日には、市長とキッカケラボの中村善輝さん、6人の生徒がパネルディスカッションを行い、市の良いところや課題などを議論。7月13日には、スポーツや子育て、産業などの分野に精通した講師の話を聞き、課題解決策を考えるエキスパート講座が開催されました。

9月には企画発表会があります。生徒の柔軟な発想やアイデアに期待です。

▼動画はココ

▲体育館で行われたパネルディスカッション

50mのホースに驚き

小学生が海津木苑を見学

津屋崎小学校4年生が、7月に古賀市にある汚泥再生処理センター「海津木苑」の見学に訪れました。海津木苑は、福津・古賀市内のくみ取り式便所のし尿や浄化槽汚泥などを処理する施設です。

施設見学の前に、有限会社津屋崎サニタリーの職員がバキュームカーの吸引の実演を披露しました。50mのホースを伸ばし、くみ取りを始めると、児童は声を上げて驚き、興味津々。「満タンになったらどうするのか」「タンクには何リットル入るのか」といった質問に、津屋崎サニタリーの長田さんが丁寧に答えていました。

▼動画はココ

▲吸引実演とホースを伸ばす津屋崎サニタリーの職員

これからも勝利を目指して

柔刃會所属の児童たちが空手道の大会で活躍

福津本部道場 空手道 柔刃會所属の永瀬優磨さんが「スーパージュニアカップ2026全九州空手道大会」で優勝し、須田朱宇磨さんが「第14回絆全九州空手道交流大会」で準優勝したことを報告するため、6月18日に市長を表敬訪問しました。

永瀬さんと須田さんは「気持ちを込めて勝ちたい」「今後の試合で優勝したい」とそれぞれの意気込みを話していました。

▲意気込む永瀬さん（左下）と須田さん（右下）

▼動画はココ

チームを引っ張る選手に

福津在住の高校生が相撲の全国大会に出場

市内在住で福岡魁誠高校2年生の廣渡翔和さんが、福岡県高校総合体育大会相撲競技大会2026の80kg級で優勝。全国大会に出場することを報告するため、6月24日に市長を表敬訪問しました。

廣渡さんは「団体では準優勝だったので、来年3年生になったときにはチームを引っ張っていける選手になりたい」と力強く語っていました。

▲賞状を掲げる廣渡さんと市長

▼動画はココ

～読者の皆さんから寄せられた市内の出来事や旬の話題をお届け～

街角カメラリポート

「光の道」と「かがみの海」の名称こぼれ話

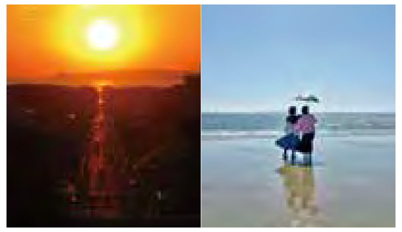
今回は広報ボランティア櫻井紀子さんからの投稿です

市内の絶景スポット「光の道」と「かがみの海」。この神秘的で美しいネーミングについて調べてみた。

「光の道」は宮地嶽神社と地域の人たちが大切に守る参道を夕陽が一直線に照らす景色だ。これは、元国民的アイドルグループが出演したCMによって、平成28年ごろに定着。SNSでさらに福津市の名が全国に広まった。

「かがみの海」は、コロナ禍に密を避ける屋外観光を推進して市や観光協会などが連携し、令和3年に福間・宮地・津屋崎の「干潮時の美しい砂浜」を観光ブランドとして発表。特定の海岸名を入れずあえて「かがみの海」としたことで、3つの海岸の回遊性が生まれた。

素晴らしい景観の感動を見事に表現した2つの名前。これからも私たちのまちの誇れるスポットを大切にしたい。「かがみの海」の詳しい内容は一般社団法人ひかりのみちDMO福津ホームページで確認できる。



取材協力:市商工観光課観光振興係
写真提供:宮地嶽神社、東海地方からの観光客

津屋崎のまちが熱気に包まれた

津屋崎祇園山笠

▼動画はココ

300年以上の歴史を誇る津屋崎祇園山笠が開催され、7月18日に裸参り、7月19日に追い山が行われました。

追い山では、舁き手たちの勇姿を一目見ようと波折神社周辺は観衆で埋め尽くされました。「北流」「新町流」「岡流」の順にまちを駆け巡り、山笠が動けば、観衆も移動。通り沿いはホースやバケツで勢い水をかける人たち、撮影をする人たちであふれていました。

▲北流（右）新町流（中）岡流（左）の大迫力のお宮入り

身近な話題を楽しく学ぶ

郷育カレッジ開講式

令和8年度郷育カレッジ開講式が、7月4日にふくとぴあで開催されました。

当日は料理研究家・管理栄養士の村上祥子さんの公開講座「食べることは生きること」を開講。村上さんは話の後、電子レンジを使用し、チキンカレーやサケのアクアパッツァなどの調理を実演しました。受講生からの質問にも応じ、150人以上の受講生たちはメモを取りながら熱心に受講していました。

今年度は「自然環境と防災・減災」など身近な話題を中心とした講座を展開。詳しくは、19ページをご覧ください。

▲アマニチャーハンを作る村上さん

隠された人形を探せ！

あぜまちのつちにんぎょうをさがそう

畦町宿保存会が主催する「あぜまちのつちにんぎょうをさがそう」が、畦町の東構口周辺で7月5日に行われました。

雨の中、親子15人ほどが参加。草むらや樹木、建物の陰に隠された「つちにんぎょう」15体を探しました。タライで洗い、きれいになった「つちにんぎょう」を、当日リニューアルされた畦町宿掲示板の前の切り株に飾りつけました。

畦町宿保存会代表の岩熊寛さんは「若い世代へのバトンタッチに挑戦中で、今日はその第一弾。活動が更に長く続くことを願っている」と語りました。

▲「つちにんぎょう」を切り株に飾り付ける子どもたち

津屋崎の夏が始まる合図

豊村酒造の夏支度

▼動画はココ

津屋崎にある「豊村酒造旧醸造場施設」で「豊村酒造の夏支度」の見学会が7月8日に開催されました。

令和6年に国の重要文化財に指定された、津屋崎千軒のまちなみの象徴の一つでもある豊村酒造では、毎年夏を迎える前に、主屋の土間と奥の居住空間を仕切る建具を外し、本格的な夏の到来に備える「夏支度」を行います。

当日は、金氣順也建築工房の皆さんが中心となって丁寧に作業。その様子を、10人以上の見学者が見届けました。湿気で膨張した木製の建具を、工具を使って調整しながら慎重に取り外し、約30分で夏支度が完了しました。

夏支度を終えると、豊村酒造の豊村理恵子社長は「無事に終えることができてほっとしている。この夏支度を終えると晴れやかな気持ちになる」と話していました。

▲土間と居住空間の間の仕切りを取り外します

身近な相談パートナー

市の人権擁護委員が表彰

▼動画はココ

法務大臣から委嘱を受けて、人権擁護委員として7年目を迎える笠置千晶さんが、長年の功績を認められ、福岡県人権擁護委員連合会長賞を受賞し、6月24日に市長を表敬訪問しました。

人権擁護委員の子ども部会に所属する笠置さんは、身近な相談パートナーとして、県全域で活動。昨年は、市内でスポーツ人権教室を開催するなど、人権教育の普及などにも取り組んでいます。

笠置さんは「大変なこともあるが、子どもたちだけではなく、たくさんの人と交流するのが楽しい」と語っていました。

▲賞状を掲げる笠置さん（右）

人権を当たり前に

人権啓発活動

▼動画はココ

7月の同和問題啓発強調月間・“社会を明るくする運動”強調月間・再犯防止啓発月間に合わせて、7月1日に、JR福間駅で市内の小・中学生作の人権標語を付けたグッズを配布しました。市長や保護司、更生保護女性会、人権擁護委員などの皆さんと福間中学校の生徒たちが一緒に啓発活動を行い、人権の大切さを呼び掛けました。

また、期間中には、市内の公共施設で小・中学生が描いた人権ポスターのパネル展示を行い、人権について改めて考えるきっかけとなりました。

▲人権啓発グッズを配る市長と福間中学校の生徒